

会議議事録（要旨）

										記録者	課長補佐	稲垣	章一	
供覧	教育長		教育部長		教育総務課長		指導課長		所長		課長補佐		係長	
件名	令和4年度第1回龍ヶ崎市いじめ問題対策連絡協議会													
年月日	令和4年7月7日（火）													
時間	14時00分から15時30分													
場所	龍ヶ崎市役所 附属棟1階第1会議室													
出席者	委員（14名） 小倉聡，松谷真一，海老原大輔，黒岡宏之，平出恵美子，大野孝男，名島教育総務課長，本橋指導課長，国松文化生涯学習課長，蔭山子ども家庭課長，岡澤健康増進課長，千葉教育センター所長，黒澤学校教育相談員，戸澤淳子 市教育委員会（3名） 大古教育長，中村教育部長，稲垣課長補佐													
欠席者	和歌森将城，藤枝洋明，岩瀬俊輔													
内容 稲垣補佐	皆様こんにちは。 本日の進行を務めます稲垣です。 開会に先立ちまして配付資料のご確認をお願いいたします。 封筒の中に要項それから名簿、センターにおけるいじめに関する取り組みと今日の講義のSTANDBYに関する資料が入っているかと思ひます。 また今年度、委員を委嘱させていただく方には委嘱状が入っておりますので、ご確認ください。 それでは只今から令和4年度第1回龍ヶ崎市いじめ問題対策連絡協議会を開会いたします。 教育長あいさつ、教育長がご挨拶を申し上げます。													
大古教育長	只今ご紹介いただきました龍ヶ崎市教育委員会の大古でございます。 この後着座にて失礼いたします。 龍ヶ崎市いじめ問題対策連絡協議会の委員の皆様におかれましては、日頃より、多大なるご支援をいただいております、心より感謝申し上げます。 さて、この協議会のテーマであるいじめ問題は、根絶を目指して学校と各連携機関が連携しながら取り組んでいるところですが、いじめは時代と共に、その様相を変え、陰湿で表面化しにくくなっております。 対応の遅れや対応の仕方によっては、重大な事態となることもあり、益々根絶や対応の難しさが増していると認識しております。 事案が発生する度に、学校や教育行政の関係者が厳しいご指摘、そしてご批判をいただくこともあり、益々こちらも厳しい現状があるかと思ひます。 子供たちからのサインや小さな変化を見逃さないことが、大切であるということは常日頃から皆さんお話をされているところではありますが、しかし、子供たちはSOSがすぐに出せるほど強い存在ではないと思っております。 そこで、本市は本日の講師谷山先生が開発を代表されたSTANDBYを導入													

大古教育長	<p>させていただきます。</p> <p>昨年度まで活用させていただきました S t o p i t につきましても、谷山先生が日本に導入されたことは皆様もご存知のことかと思えます。</p> <p>先日の日本教育新聞にもインタビュー記事が載っており、拝読させていただきました。</p> <p>私も先生のおっしゃるとおり、現在の子供たちにとってはアプリによる相談は電話やメールよりもハードルが低いというふうに思います。</p> <p>ですから、早期発見や早期対応に繋がる方法としては、大変有効であると思っております。</p> <p>本日は先生からその効果についてもお話をいただけるということですので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>さて本市は小中学校全体でたつのこ人づくり学習を小中一貫教育の柱にして推進しております。</p> <p>このことはこのようないじめ問題対策の一つの方策ともなり、大事なところは全小中学校が一貫した人づくりを進めていくことにあります。</p> <p>そしてその成果が短期的、更には長期的に発揮され、よりよい人間関係や教育環境を構築することに繋がるよう取り組んで参りたいと思っております。</p> <p>本日のこのいじめ問題対策連絡協議会の委員の皆様には、現在抱えているいじめの現状を再度ご理解いただくとともに、今後の本市の子供たちの健全育成、いじめのない安全で安心できる社会づくりを推進するための様々なご意見を頂戴できればと願っております。</p> <p>短い時間ではありますが、活発なご協議をよろしくお願ひいたします。</p> <p>以上、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。</p>
稲垣補佐	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、委嘱状の交付に移ります。</p> <p>では3年度末の人事異動や各団体の役員改選により8名の委員が退任されたので、このたび新たに8名の方を委嘱任命させていただきます。</p> <p>協議会運営の都合によりまして、略式の形をとらせていただきます。</p> <p>委嘱状は封筒に入れさせていただきました。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p> <p>続きまして、委員の方々の自己紹介を名簿順にお願ひいたします。</p> <p>(委員の自己紹介)</p> <p>なお役員につきましては、会長を龍ヶ崎小学校小倉委員に副会長を龍ヶ崎人権擁護委員会委員協議会人権擁護委員と戸澤委員に引き続きお願ひしたいと思います。</p> <p>続きまして、協議に移ります。</p> <p>ここからは会長の小倉委員にお願ひしたいと思います。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
小倉会長	<p>では着座にて失礼いたします。</p> <p>昨年度に引き続き、議長を務めさせていただきます。</p> <p>小倉でございますよろしくお願ひいたします。</p> <p>協議の進行を円滑に進めていきたいと思っておりますので、どうぞご協力をよろしくお願ひいたします。</p> <p>はじめに令和3年度のいじめ認知件数について昨年度の活動を含めて、千葉教</p>

	<p>育センター所長から説明をお願いしたいと思います。 よろしく申し上げます。</p>
千葉所長	<p>それでは令和3年度の龍ヶ崎市教育センターにおけるいじめに取りに関する取り組みについてご説明いたします。 資料の方をご覧ください。 まず1にあります令和3年度いじめ認知件数です。 小学校120件、中学校111件。 いずれも3か月発生してから本人が、心身の苦痛を感じることがない状態が続く経過を見守りますので、うち解消は小学校107件。 13件は見守り継続中です。 中学校においては、104件解消、7件は見守り継続中です。 小学校では冷やかしかからいか、悪口等が多く、中学校では、今年度も引き続きSNSでのトラブルが急増しております。 また子供同士は解決しても、それを機に保護者同士がトラブルになるケースも少なくありません。 続いて2です。 相談業務として、本センターの教育相談員による相談、それから本日講師を務めてくださる谷山さんにもお世話になっているSTANDBYによるSNS相談、そして、龍の子さわやか相談員派遣、市スクールソーシャルワーカー派遣、また、県スクールカウンセラーの派遣ということで、教育相談のほうを充実しております。 裏面にいきまして、3、啓発事業としては4つで、記載させていただきました。 特にSTANDBY株式会社より講師を招聘して授業を毎年行っております、 (1) 脱いじめ傍観者プログラムの実施を今年度も市内全中学校1年生を対象に行いました。 詳しくは資料の方をお読みください。報告は以上になります。</p>
小倉会長	<p>千葉先生、ご説明ありがとうございました。 それではですね、ただいま説明をいただいたことについて、詳しく聞きたいことや、意見とかありましたら、発言をしていただきたいと思います。 どうぞよろしくお願ひしたいと思います。何かありますでしょうか。 では、私の方から1つよろしいですか。 小学校で120件、中学校で111件あって、107件と104件ずつ解消されているということで、これも取り組みの大事な1つではありますが、色々な方が協力していただいて解消すると思うのですが、見守り継続中というものが13件と7件ありますが、小学校の中で何か1つ、こういう問題がなかなか解決しづらいということがあれば、お知らせいただくとありがたいと思います。</p>
千葉所長	<p>ありがとうございます。 トラブルが継続していて、支援見守り継続中ということではなくてあくまでも3か月は見守りを続ける、その場で謝罪が済んだから終わりということではなくて、3か月は本人を見守っていくということでの継続になっております。トラブル自体が続いているというケースはございません。 以上です。</p>
小倉会長	<p>トラブルが早期解決しているということで、安心できたかと思いますが、いじめの問題はね、これからも様々な形で現出してくることかと思えますけど</p>

も、一致協力してですね、解消に向けて頑張っていければいいと思います。他にありますか。

それではないようですので、次に移らせていただきます。

今の説明の中にもありましたけども、SNSの問題っていうことが非常にクローズアップされているわけですけども。

匿名報告相談アプリ、STANDBYの効果について、STANDBY株式会社代表の谷山様より、この後ご講話をいただきたいと思います。

谷山さん、どうぞよろしく願いいたします。

谷山様

はい、このまま始めさせていただけたらと思いますので、改めましてご紹介いただきましたSTANDBY株式会社の谷山大三郎と申します。

お手元の方にスライドの一部をまとめた資料、表裏で2枚ですね、計4ページのものがございますので、見やすい方を見ていただけたらと思います。

私はですね、龍ヶ崎市様に初めて関わらせていただいて、それこそ松谷様と色々仕事させていただいて、一番覚えているのが、伺った日に龍ヶ崎コロッケを御馳走いただいて、そこでもう龍ヶ崎市のことが大好きになって色々なところでお伝えしている状況です。

でもそんなふうにしてご縁をいただいて、色々な形でご縁を今日までいただけていることも、大変光栄でございます。これからもよろしく願いします。

今日はですね、SNS社会におけるいじめの対策、それから匿名報告相談アプリSTANDBYの効果についてという題でお話をさせていただきます。

このSTANDBYあるいは旧St op i t、ご存知の方も多いと思いますが、改めてどういう目的で、どういう背景で、どういういじめの理論から作ったのかそういったところも含めて、お話をさせていただけたらと思っております。もう少しだけ自己紹介をさせていただきます。

私は1982年12月生まれで、富山県出身、千葉大学教育学部、それから大学院教育学研究科を修了して、もともとリクルートという民間の会社に勤めたのですが、子供と関わる仕事がしたいと思って、旧会社がSt op i tジャパン、STANDBY株式会社、それから一般社団法人st and by you、これアスリートの方というか、これもよくなぜって言われるのですが、松井秀喜さんと一緒に作ったという経緯がありまして、いわゆるアスリートの方と相談窓口を広げていこうという活動や、千葉大学教育学部の方で特別研究員、あるいは講師の方も務めたりしております。

色々なところにも発信はさせていただいています。丁度、文科省の方が4年ぐらい前からSNS相談のいわゆるガイドライン等も作ることもありましたので、そういったときに、当ワーキンググループに参加させていただくなど、そんな経験もございます。

現在はですね。3つの取り組みをしております。そのうち、最初から実施させていただいているのが左の2つですね、いじめの抑止から問題解決までというのを私は大事にしている、被害者も傍観者もSOSの出し方を考える「SOSの出し方教育専任講師」が現地またオンラインで授業を実施しております。

それから匿名でSOSを出せる「解決してくれる人と繋がるSTANDBY」、個人の端末だけでなく学校で配付される1人1台端末を活用し、すべての子供が「SOSをどこでも出せる環境」を作ることを目指しています。

また新しく今始めているのが、自分も先生も気が付く心の健康観察「シャボテ

谷山様

ンログ」というものです。

自分の悩みを言語化できない子供がSOSを出せるようになり、周囲の大人が早く気づくことができることを目指しています。

今日は主にこの左2つのお話をさせていただきます。

そもそもですが、どういう思いでこの製品を作ったかと言いますと、私はいじめ問題の解決の1つのヒントというか、大事ことは、助けたい人を助けられる社会を作ることだなと思って活動しています。

これも、自分の経験からお話させていただいて、ご説明しようと思います。

これは、私が5年生の時の写真ですが、私がいじめ問題の活動をしている理由は、もう率直に自分がいじめられていたからです。

今日も見ても分かりますが、私は猫背で姿勢が悪くて、昔からからかわれるタイプでした。今では、こうして人前で話をしてはいますが、口下手だったので、小学校5年生で富山県のすごく田舎の滑川というところで1クラスしかないところで育ってですね、中学校も公立なので、メンバーもそんなに変わらず過ごしてきて、最初は猫背なのをからかわれたり、中学校で制服を切られたりとか、結構重たいものもあったりして。

やっぱり、そのときの自分を思い起こすと、辛いとき程なかなか相談できなかったなということが1つあるのですね、辛ければ辛いほど我慢しようとか、私は両親のことが好きだったので、両親を好きだから絶対相談はしないという感情がすごくあって、いじめの相談は難しい、とずっと思っていました。

ただ私を救ってくれたのも先生で、小学校6年生のときの先生で、私はそのとき5年生で、実は愛知県の大河内清輝さんがなくなったタイミングというか時期でもありまして、その時その話題で、その先生も特別活動の時間に「人を傷つけるのは絶対許さない。」って、今なら少し問題なるかもしれないぐらいの強い口調で言ってくれてですね。

そこで、結構いじめが治まって、自分でSOS出せなくても誰かが救ってくれたら救われるかもしれないということが感覚としてあってですね、それがさっきの助けたい人を助ける社会を作ろうという、SOSを出しやすい社会ももちろん今作っていますが、同時に、傷ついた人がいたときに手を差し伸べやすい社会ってどうやったらできるのだろうかというのが根本としてはありました。なので、いじめも、私は素晴らしい先生をたくさん知っていて、先生方が一生懸命の前提があって、だけど子供たち同士が助け合い、いじめが起りにくい雰囲気のある教室ができるのか、そういったことをしていくことがこれからのいじめ対策になるのではないかと、というのがまず根本のスタートとっております。

もともと、このいじめアプリも最初からご説明すると、まずアメリカで生まれたものなんですね。それがStoptというもので、いじめを匿名通報できるアプリがあります。私はこれを2015年に会社を辞めた後、NPO法人で一時期働いていたので、6月ぐらいにこの記事を読んで、これはいいなと思って、それでアメリカにあまり英語は話せなかったのですが、4回ぐらいメール送り続けてですね、そしたら1か月後ぐらいに連絡がきて、「あなたは何者ですか。」なんて話をしたりとか、会話をしたりして、約1か月後に渡米してですね、話をする中で、じゃあ日本で一緒にやりましょうと。

私は相談しやすい環境、あるいは人を助けやすい環境を作ることが、ヒントになるんだと思ってですね、最初2016年にこれができて、でも2017年までは、どの自治体様にもうまく使っていただくことができなかったのですが、初めて2017年に千葉県柏市というところで、当時の指導課長の宮武さんと

谷山様

という方で、今は退官なされているのですが、「一緒に子供を救おう。」と言ってくださって、それで初めて導入が決まりました。

そのとき、私は教育学部出身でしたし、教育の力も信じていたので、システムだけで子供を救うことは、なかなか難しいと思って、きちんと予防を含めた教室の雰囲気を作るような授業作りもきちんと行って、セットで取り組もうと思ったのが最初のきっかけでした。

この時の取り組みの様子が、ちょうどNHKで放送されたときの映像がありますので、学校の先生方にご存知かと思いますが、改めてどんなものか、ご紹介させていただけたらと思います。

(S t o p i tに関する取り組みについての映像を視聴)

というのが、一連の流れとなります。

実際、初年度これを始めて自治体で使っていただいたときに、電話やメールよりも約10倍以上の相談件数になりまして、一定の効果が見られたということが、千葉大と一緒にいった結果でございます。

そういった中で、少しずつ口コミであったり、色々な方に紹介いただいたりしながら、今は1072校で導入していただいている、東北辺りはまだまだ導入されていないのですが、全国的には30自治体ほどで使っていただいています。一方で、まだまだいじめで苦しむ子供もいるので、そこはもう、私ができることは勿論、先生方とか学校とか教育委員会の皆様と連携をして、解決を図ることを目指しております。

というところが、自己紹介とそもそも背景にあるものです。

ここからはまずお題に沿って、1つずつお話しさせていただこうと思います。SNS社会におけるいじめの対策、ここに関しては、本当に色々な方法があると思います。一言で言えるものでもないですし、様々な活動がされている中で取り組まれているものなので、私はその中の1つを行っているという気持ちです。

ただ、前提としてなぜいじめをしてはいけないのか、私は2つ思うところがあってですね、1つはユネスコが2019年に出したデータがあって、頻繁にいじめの被害に遭っている子供は、そうでない子供より学校の欠席が増え、学校で居場所がないと感じ、学業成績の低下が見られる。

やっぱりいじめって、思った以上に影響があるというか、その子のその場その場でやっぱり悪影響が大きくて、だから、早期発見、早期対応しなきゃいけないというところは、自分にも常に問いかけています。

また、もう1つデータがあって、学齢期において頻繁にいじめ被害に遭うことが生涯にわたって悪影響を及ぼすということ、7歳と11歳のときにいじめに遭っていたと親によって報告されたものは、45歳の時点で自殺傾向を有していたり、鬱病、不安障害、アルコール依存の診断を持つ傾向が高かったりした。より頻繁にいじめに遭っていたものは、そうでないものに比べ、オッズ比で1.95倍、抑鬱病になるリスクが高く、また不安障害が1.65倍、自殺傾向が2.21倍高くなることが明らかになっている。

私が不安に感じていることは、いじめって今もその子に対して影響があるし、もしかしたら、自分自身もそうかもしれないのですが、その子の一生に関わってくる、そういったところで早く止めたり、助けてあげたりするとか、思ったよりも影響があるということや、怖さと重大さを個人的には感じているところ

谷山様

ここはもう釈迦に説法なところですし、触れるだけにしますけれども、いじめ認知件数といじめ重大事態の件数、小中高学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は51万7163件、また10月になると出ると思いますが、前年度に比べて約9万5000件減少傾向、重大事態の件数も減少傾向です。これに関して、グラフは右肩上がりになっていますが、私はいいいことだとは思っています。

これはいじめ認知件数、先生がいじめ発見する数、それぐらい今は一生懸命見逃さないというか、空振りでもいいから発見するんだ、という先生方の思いがすごく詰まっていると思うので、これが増えていくこと自体はすごくいいことだと思いつつ見えています。

ただ一方で、いじめの認知件数が減少する中で、それは今年のコロナの影響もありましたが、「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされる」の件数は全体に比べると1万8870件で、わずかですが、引き続き増加傾向になる。当然GIGA端末を使ってのいじめも話題になりましたし、いじめの件数は変わってないけど、形が変わってきているところは確実にあると思っています。

そんな中で、改めてなぜ早期発見が大事なのかというと、私はこの中井久夫先生という精神科医の先生のお話をよく参考にさせていただくのですが、これは大津市のそれこそ法律ができるきっかけになった2013年の事案の中に、こういう構造がいじめの中にあっただけでとは引用されていたものですが、いじめと人間奴隷化のプロセスは同じであるということ、孤立化、無力化、透明化、それぞれ初期の段階は被害者のターゲットを決める加害者が、根拠なき誹謗中傷をして周囲を巻き込む。被害者はいつでも孤立無援化であることを感じる。

これが最初は孤立化の状態になってくる。段々それが続くと、被害者は一切反撃できない。反撃する方が危ないから、すべて受け入れるようになっていく。

逆に加害者は搾取を行い、被害者を打ちのめす、周囲に味方がいないことを繰り返し伝える。これが段々深刻化すると、加害者以外との関係性を絶つ、被害者の全面的協力を期待する、逆に被害者は大人の前で加害者と仲良しであることを誇示するなど、被害者というアイデンティティを失ってしまう。

これは、私も経験ありましたが、加害者の機嫌が悪くなったら、一番自分の身の危険が怖いので、加害者の機嫌だけを考えるみたいな感覚ですかね。

だから1日中加害者のことを考えて、加害者が笑うことをするというか、仲のよい振りをするとか、そうすると段々、その周囲の人も全然その気にしないとかじゃなくて、いじめは収まったのだとか、その中で隠していくので、段々見えにくくなっていく、それはその本では選択的不注意と示されていて、段々そのいじめ自体が見えなくなっていく、透明化していくところがあるので、この孤立化のところで、いかに発見して解決するかがやっぱり鍵なんだと、そうしないと被害者自身が自分でいじめを隠してしまう、相談もしなくなる。だから、いじめって早期発見が大事だと私は思っています。

ただ、教育長もお話しされていましたが、やっぱり最近のネットいじめは、本当に巧妙になっている。私の感覚でも、スマートフォンを持ち始めの子供は、まだまだ形に残るいじめを思うのですが、まだLINEとかで、「死ぬ」とか、でも、最近の子供って、いじめをしたら怒られるとか、自分に返ってくるのもわかっているから、後から書いたことがばれても怒られないようないじめをしないと現場の先生からは聞いています。

谷山様

例えば、1例で言うと、これは3年ぐらい前から始まっているのですが、ステメというステータスメッセージというものがあって、これ私のLINEのプロフィール画面ですね、この英語でDaizaburoh・Taniyamaと、書いてあるこの下にStopit.Japanと、書いてあるこの部分がいわゆるステメというんですね。自分のプロフィールを書く欄で、500文字ぐらい書けるのですが、ここを更新すると、他のLINE友達に「プロフィール変更しました」という内容が伝わるといいます。

例えば、「テスト期間中LINE禁止」と子供たちが書いたとします。これはこれを書くことで「今LINEでメッセージを貰っても返事をしませんよ」と伝えるという使い方をする、子供たちも情報モラルが分かっているのです、ステメには自分の個人情報等は書かない状況になってきています。

また、「〇〇の曲好き」というような書き方をする子も多いかなと思います。

ただ一方で例えば、「仲良し3人でカラオケ」と書いてですね。

これ、何かというと、もともと4人組で遊んでいたグループの1人がいじめられっ子になって、「仲良し3人でカラオケ」と書かれ、そうすると被害者だけが分かるといういじめのメッセージになっていて、他のクラスメイトや先生が見ても、責められない、なかなか言えない。

例えば、本当にあったケースですけど、「ゴリラ」と書いて、それは芸能人のことですよ、言い逃れもできるような。本当にその辺が、巧妙化していて、早期発見が難しく、私ももやもやしています。

私は最近教材作り等を色々な方としていますが、その中で1つ、まさにこんなことも最近ありますという作品があるので、ちょっと流してみたいと思います。

(ステメに関するトラブルの事例を示す映像を視聴)

これ自体は、誰でもダウンロードができ、使えるもので、道徳の時間にでも使ってくださいという形、出しているものです。さっきの事例のように、分からないように書くとか、本人の特定ができないように書く、みたいなことが増えている状況です。

この状況、すごく難しいなと思っていて、なんでこういうことが起きるのか。全員ではないかもしれないけど、私は、いじめ、不当な差別、他者の人権をないがしろにする行為等、よくないことだとみんな分かっているはずなのになぜいじめは起こるのか。

子供たちも人を傷つけようとして、いじめをしている子はそこまで多くはないと信じている部分も実はあります。

どちらかというと、認知のゆがみとか道徳不活性化という言葉がありますが、いじめ行為の正当化をしてしまう、「あいつが悪いからやった」とか、「腹が立つからやった」、本来、それは手段の選択を間違えていると弁護士さんがよく言っています。

腹が立つのは自由です。「内心の自由」が日本国憲法で保障されていますが、イライラするとか腹が立つ、むかつくのは自由だけど、じゃあやり返していいかという、全然別の話だよって、だからその手段の選択を間違えているのですが、その認知を歪めて、「正しいことやっているんだ」とか、「やられたらやり返す、倍返しだ」ってドラマだとすごく面白いけど、そういうのは子供たちの中であって、もしかしたらそれは、私も含めた大人が子供に知らず知らずのうちに伝えてしまったところもあるかもしれないのですが、そういうことが起こっているのかと。あと責任の転嫁、「あいつが悪い」とかですね、あと結果の矮小化、非人間化、都合の良い比較、非難の帰属等をしてしまう。

谷山様

子供自身がいじめたいからいじているというよりも、何かその受けたときに腹が立ったからやっちゃうとか、ついついやっちゃうとか。

あともう一つ、空気とかノリとか、いじりだと思っていたけど、それはいじめですとか、ついつい楽しくてやってしまうと、これもいじめを是とするような集団の空気、ノリがあるからこそ起こると思っています。

だからネットいじめ等も、それは大人たちが発見して止めなきゃいけない部分もあるのですが、ここまで巧妙になってくると、子供たち自身とか、その1つ1つの空間自体が、多少変わっていかないとなかなか防げないと思っています。だから私は、学校と社会を繋いだり、風通しをよくしたりするとよく伝えています。

例えば、外部講師が学校に行って、普段とは異なる人間関係の人がいじめはやっぱり駄目だよねと伝えることは、何かしらの意味があると思っています。

当然先生が言っていることも伝わるけど、実際、他の人も「いじめはよくない」と伝えることで、何かそこではっとするというか、普段のしがらみから抜け出るとか、意味があることだと思っていて、傍観者というテーマでもそうですし、授業をしています。

また、最近だとオンラインで授業ができるので、チャレンジしてみたいと思っています。それは各年を超えて、道徳の授業等もできるかもしれないですし、ICTの学習ツールも増えているので、クラスを超えて同じ教材を見て、いじめについてどう思っているかを考えることも面白いと思っています。

やっぱり外で駄目なことは学校でも絶対駄目なはずで、やっぱりそれは人を殴ってはいけなくて、いじめだから駄目だというより、人権の問題として駄目で、そういった社会の当たり前がきちんと学校に届くような文化であるとか、いわゆる学級の風土づくりみたいなことをしたいということが1つの思いとしてはあります。

その先に、助けようと思ったときに遠慮なく助けられるとか、手を差し伸べられるとか、そういった社会になっていくのだと思っています。

だから究極には、アプリは提供しますが、アプリがなくなることが一番の理想的というか、何かそういうところを私自身も目指していかなければいけないですし、活動として目指しています。

あとは、このいじめの4層構造という、色々なところで話されているものですが、その中で、特に教室でのいじめには被害者がいて、その周りに複数の加害者がいて、囃し立てる観衆がいて、さらに傍観者がいる。

この傍観者が、森田洋二先生が研究で話されていたのは、「仲裁者」という言葉が話されていましたが、いじめは駄目だとか、止める人が増えれば、いじめの50%は減りますと、2010年の古いデータですが話をされていました。いじめに対して否定的な気持ちをもつ子供が増えること自体も意味があるでしょうし、社会全体がそう思えてくると、より意味があると思います。

このようなことを通して、「あいつが悪いからやった」とか、「あいつに原因があるからやってもいい」みたいな風潮は変えていけたらいいと、常に思いながら活動しています。

続きまして、特命報告相談アプリSTANDBYの効果についてというところですが、このSTANDBY改めてですけれども、スマートフォンのアプリとして相談ができる、それから1人1台端末等で学校の端末を使って相談ができる

谷山様

仕組みになっています。

そもそもの話をしていくと、去年まで S t o p i t で今年から S T A N D B Y に変えたのですが、きっかけとしては、S t o p i t はいじめを止める、何か止めるという意味だったのですが、段々 1 0 0 0 校ぐらいの学校、昨年は 5 0 0 校でしたが、相談の状況を見ていくと、自分の相談がすごく増えてきて、家のこと、虐待のこととか、生活や自分のキャラの悩みとかも含めて、相談の質いわゆる子供の質自体変わってきたので、S t o p i t というより、もう少し子供に寄り添えるようなそんな意味合いを持ってないかなということ、S T A N D B Y って頼りになる人やものという意味があつてですね、子供が苦しいとき、あるいは誰かを助けたいけどどうしていいかわからないときに頼りになる存在になればいいということで、今年変えた経緯はございます。

改めてこの仕組みをお伝えすることもないと思います。

いじめを受けている子供、それからいじめを止めたい周りの子供がいて、この S T A N D B Y を使って、龍ヶ崎市様は教育センターに届いてチャットのやりとりをする、学校、学年がわかるようになっているので、必要に応じて学校との連携をとれるようになっています。

では、どういったときに役立つかという、先ほども言いましたがいじめの早期発見は本当に基本になってくるところで、この表に示されているのは、文科省の資料からですが、いわゆるいじめの発見経路が示されています。

真ん中が 2 0 2 0 年度で、その横が 2 0 1 1 年度でそこからどれだけ増えたかという所で、ぱっと見ると、当たり前ですけど「アンケート調査で発見」というのが一番増えています。法律前後というイメージですかね、2 0 1 1 年と 2 0 2 0 年でこれはもう本当に丁寧に学校の方で色々なアンケートで発見しようとしていて、それが成果を出していて、やはりいじめの発見でアンケートは意味があると私は思っています。そこから気付くことも多いと感じます。

シャボテンログでは、子供から出てきたアンケートの深刻度を見て、よりの確に解決していくことを目指しています。

ただ同時に注目しているのが、本人からの訴えと本人以外の児童生徒からの情報は、ここも増加比率としては高いんですね、本人からの訴えが 5. 5 % で 9 万件、本人以外の情報は 4. 8 倍に増えて 1 万 7 0 0 0 件、こういった所は、S T A N D B Y に限りませんが、何か相談しやすい環境だったり、S O S の出し方だったりとか、そういったことをする中で増えてくるかもしれないと思っています。まずこういったところ、いじめの発見機能でこれ以上アンケートの回数を増やすのは現実的に難しいので、この早期発見の経路を 1 つ増やせるのではないかと期待して行っております。

あとは 2 月 2 4 日に文科省から S t o p i t の時代ですけど、紹介いただいたことがあって、自殺対策としても、いわゆるセーフティネットの 1 つとしてあり得るのではないかと紹介もいただきました。

最近の状況がどうなっているか、これも 2 月で S t o p i t の時代ではありますが、北海道放送で特集を組んでいただき、また、先ほど紹介した柏市の一番最新の情報がわかると思いますので、そこを紹介しようと思います。

(北海道放送での特集、柏市での S t o p i t における取組みがわかる映像を視聴)

というものです。

谷山様

ちなみに柏市さんの取り組みがよく出ていますが、本当に去年までだと松谷さんも同じように私も何度もお話聞かせていただいて、丁寧に何回もやりとりされて、それを共有されていると思いますが、本当に素晴らしくて、今年新しく導入される自治体様が茨城以外のところで幾つかあって、そこでも講師をお願いして、やりとりの方法とかも、初めてされる方にお話をしてくださって、本当に絶賛されていました。

それぐらい龍ヶ崎市も子供にとって安心できる環境になっていると、日々私も感じているところです。

今年も千葉さんが丁寧にやられていてですね、なんかそこは、嬉しいというか、安心しています。

こういった形で、生の子供たちの声が届いて、私も今、こんなことが起きているとか、子供ってこんなことに悩んでいるということは、私が気付くことも結構多くて、まだまだ分からないことも多いですし、勉強しなきゃいけないことが多いと感じながら、取り組んでおります。

導入しての効果というところは本当に色々な形があると思います。

意味合いも自治体様によって様々で、いじめのためというところもあれば、子供の悩み全般を受け取るためというところもあってですね。効果を一言ではなかなか言えないのですが、例えばある自治体様は、いじめ被害を相談できない子がいることに課題意識をもっていて、相談窓口を拡大し、カウンセリングでの問題察知を目的に導入というところで、まず未然防止ですね、いじめに抑止力として生徒の意識が向上した実感があると。

いじめ傍観者授業によって生徒、教員ともにいじめの意識が向上し、問題を察知報告する姿勢がついている、教員が問題を見逃さないための抑止力にもなっている。

これも本当に我々そんなこと思っていませんが、脱傍観者の授業を担当の先生が見ていただくこと自体に意味があるのではないかと、言っていただくことも多いですね。やっぱりそういった空気を作っていくとか、そういったことをみんなで考えていくきっかけになっているとはよく言われます。

早期発見、いじめ相談の窓口として、従来の相談件数が9倍になりました。

電話メール相談が15件だった件数が133件になり、相談できない子の人数が減った実感がある。

また傍観者相談機能として第三者からのいじめ報告が増加、全中学校1年生向けに脱いじめ傍観者授業実施、その効果として傍観者相談率48%を記録、今までなかった傍観者からの相談が年々増えており、声を上げられない子を救えている実感がある。

対応としても介入機能として重大事態の問題解決に繋がりました。

導入して数か月経った頃、突然生徒から「死にたい」とのチャット、数時間のやりとりをして危機感を職員が生徒を特定し、詳細に聞き取り、学校と連携して行うことですが、学校の方でもある程度把握している部分があり、あの子かあの子かなぐらい把握しているとは聞いています。

当時の担任との折り合いの悪さから元担任に連絡を取り、生徒の状況を改善するための対応をしてもらった。教育委員会と長期にわたる対応の結果、生徒は高校に進学することができました。

あとはその他、よく言っていただく声として、文字ばかりが多くて恐縮なんですけれども、まずその報告相談者の学校や学年が分かるのはありがたいというのはやっぱり言われますね。

チャット相談だけで相談者のやりとりを終えてしまうと相談してくれた子供が

谷山様

一時的にチャット内で、悩みを解決したかのように見えるが、例えば学校でいじめられている場合、次の日またいじめられてしまう。Sto pitは、学校、学年がわかるため、問題がどこで起こっているか把握しやすく、問題解決まで行い易い設計がなされている。

これ実際に事例としてあったのがLGBTQ、いわゆる性の相談があったときに、学校、学年がわかるので、同時にその学校の図書館や保健室に多様な性に関連する書籍とか、ポスターを増やし、この先生は、この学校は分かってくれる、この先生は理解してくれるということで、実際に直接の相談も増えました。それで学校自体も少しずつ環境変えていくみたいなのところもありました。

あと報告相談専用アプリであること。

普段使用しているSNSこれ別にLINE相談を否定するわけではなくて、普段LINEでいじめを受けている子は、怖くてそのLINEを開くことすらできないんじゃないか、苦痛なんじゃないか。だから、そこに相談窓口があると、相談窓口自体を開けないんじゃないか。

Sto pitは専用アプリであるから相談だけの機能なので、安心して子供は利用することができる、嫌な思いをしなくてもそこ開けるのではないか。

あとは、1人1台端末への登録も含めたいじめ防止啓発授業は行われるSNS相談は重要なものであるが、子供が抱える悩みや問題の根本的な解決にならない、Sto pitは予防の観点から、いじめ防止啓発授業や、講演を行っている。

さらに授業や講演内で1人1台端末を使ったSto pit登録の取り組みを行うので、すべての子供たちが相談できる環境を作ることができる、と言っていただけことがあります。

これで次のページで最後になります。

まとめになりますが、相談窓口としては、まず、相談のしやすさがあると思います。専用アプリということも、加味されると個人的には思っています。

同時に1人1台端末型末に入れることで、登録率は学校に登校できている子は100%にできるので、そこに抑止効果もある、風通しのよさに繋がる。学校外の当たり前を学校に取り入れるということも含めて、そういった抑止効果も期待できると思っています。

3つ目はもちろん自治体様によって異なりますが、いじめ対策として必要な傍観者の行動も促進できると思っています。

ある自治体さんは、対面の介入が必要だと判断したケースで、Sto pitで3人に1人に特定ができ、その後介入することができました、という報告をいただいています。

取り止めなくお話をしましたが、いじめ問題は本当に複雑で、何が正解か分かりませんが、ただシステムを渡すということだけではなくて、なぜいじめが起こるのかというところから、抑止を目指して、かつカウンセリングのその先の問題解決までを引き続き皆様と一緒に目指せればと思っています。

ぜひ皆様と一緒に「助けたい人を助ける社会」をこれからも作っていかれたらと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

千葉所長

今、谷山さんからお話がありましたが、STANDBY、今年度も早速、脱いじめ傍観者授業を行ってから、早速相談が入ってきています。

5月中に各中学校で行ってきましたが、1か月ちょっと経ちますが、約20件

千葉所長	<p>来ています。</p> <p>うち、5件は本当に送ってただけですが、でもきっと何か言いたかったんだらう、それを誰かに伝えたい、分かってもらいたい、使っているものなのか試したかったのだと思っています。</p> <p>それ以外のものはすべてやりとりをして、今も3件はやりとりを毎日しています。</p> <p>相談の内容も本当に多岐にわたっていて、学習に関する悩み、それから自分自身の心身の状態、自分が心の具合が悪いことを感じていて、これから大人になるのに、自分の病気、心の状態とどう向き合っていけばいいのか、という進路に関してとても不安を感じている悩み、それから一番多いのは、友人関係です。言っている本人はそんなつもりはないと幾らでもいえるようなことです。</p> <p>例えば、やりとりの中で、「うざい」と言われ、決して自分をいじめようと思っ言っているわけではないことは分かるのだが、言われ続けるととても辛い。それから、ちょっとしたきついことを言われ、仲がいいからこそ、そういう言葉を使ってほしくない。そういった悩みです。</p> <p>S T A N D B Y を今、市内で導入しているのは中学校のみです。小学校にも、きっと悩みを抱えている子達はいるので、これをどうにか小学校でも S O S が出せる環境作りたいていうことで、やはり谷山さんをお願いして、今年度は全小中学校でシャボテンログを導入して、これから実質的に活用をしています。ただ長山中、長山小、松葉小は、昨年度から活用しています。</p> <p>なので、子供達が相談したいときにいつでもできる、そのような環境になるように教育センターでも学校と連携しながら進めていきたいと思っています。</p> <p>以上です。</p>
小倉会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今お話の中にシャボテンログを、昨年度より活用している長山中学校と長山小学校のお話が出てきましたが、本日両校の生徒指導主事が参加しておりますので、その活用方法とか効果等をご発言いただくとありがたいのですがよろしいですか。では海老澤委員よろしく申し上げます。</p>
海老澤委員	<p>今年になってからシャボテンログを使わせていただいております。</p> <p>シャボテンの毎朝の入力で、この子、いつもと違うなと感じたので、担任から声をかけたところ、やはり何か原因があったり、相談したいことがあったりということで対応させていただきました。</p> <p>中には、毎朝の習慣なので、何となく入力している子も実際にいるので、やはり本人が心の状態をしっかりと管理することに関しては、まだまだ改善やこちらの指導が必要な状況はありますが、取組に効果はあると思いますので、引き続き継続しながら取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>本校では、週に1回相談したい先生をクリックするという日がありまして、担任やその他の先生に相談をしたいというボタンを押ささせていただいております。ただ、以前お伝えしたのですが、バグが発生してしまっていて、なかなか子供たちの状況がオンタイムで反映されない状況がありまして、実際私のクラスでは、毎日先生に相談したいとボタンを押さないと、私の手元に入力が届いてこないの、自分でも何とかしたいと思うのですが、運用する部分で修正等があればお願いできればと思っています。</p> <p>あと、S t o p i t、今はS T A N D B Y になられたということで、中学校で</p>

の実践等を、今初めて説明を聞かせていただき、理解しました。ぜひ、小学校の方でも導入していただければありがたいと思います。

というのは、先日人権メッセージでSOSの手紙を書くための手紙を配ったときに、実際そこに送った4年生がいました。

その内容に関して手紙が来て、やりとりをしたときに、親御さんがどうしても手紙の内容を見るので、家庭の悩みを相談していたのに、親御さんがその内容を知ってしまったというケースがあり、匿名でダイレクトに第3者がコンタクト取れるようなものがあればこのようなことはなかったと、今説明聞いて考えさせられましたので、ぜひ小学校でも入っていただけるとありがたいと個人的には思いました。以上です。

谷山様

そのバグの件に関しては、至急確認いたしますので、大変申し訳ありません。ありがとうございました。

黒岡委員

長山中学校生徒指導主事の黒岡です。

長山中学校でも昨年度からシャボテンの方を活用させていただいて、私自身、昨年度は3学年の担任をしております、今年度は生徒指導主事という立場で学年を離れて担任じゃない立場で活用をさせていただいています。

長山中学校は毎朝8時10分までに登校し、全員が着席したのを確認してから1人1台端末を開いて、一斉にシャボテンを入力しています。

何故一斉入力にしたかという、心の状態等を入力するので、誰かが動いている時には、心の不調や体の不調等を入力しづらいだろうという、プライバシーの保護の観点で、全員が一斉に、同じ時間という形で入力をしています。

担任は、教室でリアルタイムに入力された内容を見ながら確認をして、自分は、今年度に関しては8時10分から20分までの間に入力が完了するので、全クラス確認をして、内容をプリントアウトして、管理職席の前に職員が全員確認できるようにバインダー等で閉じておいてあります。

そうすることの理由としては、さわやか相談員の先生とか、端末を持っていない先生方とか、誰でも確認ができるような形にしています。

担任をしているときには気付かなかったことで、朝の健康観察を行うと、ほぼすべての生徒が「はい元気です」と、いつもの挨拶のように回答をするのですが、「はい元気です」と回答した生徒の心の状態は×や△がついていて、心と体のアイコンで選択だけではなくて、備考欄を見ていくと、何か言葉が一言書いてあるときがあって、担任も朝授業があると把握できないときがあるので、自分の方で確認しながら、「今日こんなことが書いてあったので、ちょっと声をかけてもらえますか」と担任に伝えることがあります。

過去の記録もずっと見ていけるので、心の状態にずっと△がついている子だと、何かしらトラブルや悩みがあって、それをちょっと引きずっているかなと見とったり、ある日突然×がついた子に関しては、昨日から今日にかけて家か学校かどこかで何かあったのではと考え、帰る前に一声かけてほしい、と担任にお願いしたりしています。STANDBYの授業を1学年でさせていただいていますが、STANDBYを通した子供からのSOSが出るよりも先にこちらから一声かけて、そこに至る前に対応することが今年度に関してはできていると思います。後は1日の生活の中で何かちょっと不調を訴えたり、別室での授業を希望したりする子のシャボテンを見てみて、最近心の×が続いているなどか、単純な体調不良ではなくて、心の不調が原因じゃないのかと考え、家庭に連絡をしてみて、家での様子を聞き、心の不調の原因について考えていくことが今

黒岡委員	<p>年度はできていると思います。 STANDBYでSOSを発信する手前のところで、何とかを止められた事案が今年度は何件かあったと思います。</p> <p>いじめを受けていることを本人が気付いていないこともたくさんあって、周りから見ていると、それはいじめだと言えることでも、「小学校のときからこういう感じの関係なので」と、重く受け止めておらず、本人がそれを認識したときには結構重大になっていることがあります。人間は、心の不調を自分で認識することが難しいので、何となく気が晴れないと思ったときに、「気が晴れない」ボタンを押してくれるので、こちらが変化に気づき、声をかけられる状態にはなっていると思います。</p> <p>長山中学校では、月に1回の学校生活アンケートの実施時に合わせて「話したいボタン」を押す機会を設定しています。</p> <p>この先、週1回に変えていくかの検討材料にはなりますが、早めに声をかけることができているので、「話したいボタン」を設定したときも、本当に深刻な悩みで相談を希望するケースがかなり減っています。</p> <p>あとはそういう状態じゃなくても、「さわやか相談員の先生と話しがしたい」と自分から言える状況であることが長山中の現状かと思っておりますので、この先シャボテンを活用しながら、事が大きくなる前に早期の対応をしていきたいと思っています。以上です。</p>
小倉会長	<p>はい、ありがとうございました。 学校の教員ばかり話をしているので、今度は母親の立場で平出さん、お願いできますか。感想でも結構です。</p>
平出委員	<p>本日はためになる話をありがとうございます。 市内小中学校の保護者をしております。</p> <p>上の子は今中学1年生で、下の子が5年生の女の子と1年生の男の子ですけど、いじめって本当に難しい問題で、長男も入学当初、お友達とトラブルがあり、それは売り言葉に買い言葉で、本人も悪いところもあり、でも、お友達の行き過ぎた行為によって、うちの息子が傷ついて、でもそのことに関しては、私に直接息子が話してくれたおかげで、学校にお話しすることもできたのですが、上の子は発達に課題がありまして、人に対して空気が読めない分、隠しごともあまりできないので、悪いことをしたり、自分がされたりしたことを私に言ってくれますが、やっぱり他のお友達は、思春期になり、親には言えない、言いたくないっていう気持ちもすごくあると思うし、いじめも本当に巧妙になってきているので、これからのことがちょっと不安になりつつも、学校の先生方や市の方々が、いじめに対してすごく協力してくださって、シャボテンに関しても、あまり分かっていなかったのですが、市が子供に対してものすごく動いてくれていることを聞いて、気持ちが熱くなったというか、すごく嬉しかったです。</p> <p>自分も小学校中学校で、ちょっといじめにあったもので、自分のときにもこういう取組があれば、もう少し学校が楽しかったのではないかと思います。</p> <p>学校は、そのときしか味わえないこと、楽しいことやお友達関係のこと等もあるので、いじめでつらい思いをせずに楽しい思い出を作ってもらいたいです。</p> <p>また、いじめをするお友達も何かしらの原因があるからいじめる、ただ単にむしゃくしゃしてるから、気に入らないからやっちゃえという子もいると思いますが、でもどこかに何かの原因があって、いじめられる人もいじめる方もどち</p>

平出委員	<p>らも助けられるような社会になったらいいと思いました。 なので、こういう機会に参加することができて本当によかったと思います。 ありがとうございました。</p>
小倉会長	<p>貴重なお話いただきましてありがとうございました。 先ほどSOSレターの話も出ていましたので、人権擁護委員をされています戸澤様。</p>
戸澤委員	<p>人権擁護の戸澤でございます。よろしくお願いたします。 今日は大変貴重なお話ありがとうございました。 私、初めて聞きまして、こんなに皆さん一生懸命お子さんたちのことを考えていて素晴らしいなと思いました。龍ヶ崎市民としてうれしいなと思った次第でございます。 先ほど会長からSOSレターのお話が出ていて、私も人権擁護委員になってまだ、一件も返事を書いたことがありません。ただ先輩の先生方から、「この間もSOSレターが届いていた」という話は聞いております。 法務局からSOSレターをいただいたら、その日のうちに返さなきゃいけないみたいです。 高学年や中学生になれば、ご自分のもっている感情を文字で表現できると思いますが、1年生とか2年生だと、本当に一行満たない、単語がポンポンとあるだけらしいです。 それをどうやって、先ほど谷山先生も言われてましたが、どういう形でそれを読み解いていくか、それがすごく重要になっていると、その先輩方の話を聞いたと思いました。 先ほど、長山小学校でSOSレターの方で、何かの家庭の方に知られたくない内容が知られてしまった、ということを知り、そういうこともやっぱり注意していかなくちゃいけないと、実感させられて今日は本当に勉強させていただきました。ありがとうございました。</p>
小倉委員	<p>ありがとうございました。 続いてもう一方、スクールサポーターの大野さんよろしくお願いたします。よろしいですか。</p>
大野委員	<p>私、スクールサポーターを始めて3年目になるところですが、今までコロナの関係で、こういう込み入った内容の話は、殆ど受けてないです。 ですから、皆さんがこんなに努力していることを初めて知りました。 やっぱりSTANDBYは、素人の私でもいい案だと思いますよね。 いじめを少しでも早く、表面に出すためには、こういうアプリを使って、子供たちを助けていけば、大きい事案にもならないと思いますので、今日はどうもありがとうございました。</p>
小倉会長	<p>どうもありがとうございました。その他にございますか。 そうしましたら、最後に私の方でまとめさせていただきます。 今回の、匿名報告相談アプリ等のお話も、効果や成果もいろいろと小中学校の生徒指導主事の先生方からお話を聞いて皆さんご理解いただいたと思います。 それから谷山さんのお話の中でも、たくさんの自治体でこのアプリが子供たちを救っているということも分かったと思います。 私たちは教員として、まず、学級経営を充実させて、子供たちの姿を見て、そ</p>

小倉 会長	<p>の変化に気付き、気をかけ、目をかけ、言葉をかけて、子供たちの悩みに寄り添っていききたいなと思います。</p> <p>そして申し訳ないですけども、アプリは補助として活用させていただきながら、いじめは絶対あってはならないものであるという強い信念を持ってですね、多面的多角的にアプローチして未然防止、早期発見、早期解決につなげていきたいなと思います。</p> <p>そして、いじめゼロに向かって、龍ヶ崎市校長会も全力で取り組んでいきたいなと思いました。</p> <p>これからも子供たちが困ることのないように、私たちが、または市民の方々の協力を得ながら、教育委員会の助言をいただきながら、子供たちの健全育成に努めていければいいなと、その様に考えていますので、今後ともよろしく願います。</p> <p>ご発言をいただきました委員の皆様どうもありがとうございました。</p> <p>本日の協議は以上でございます。</p> <p>円滑な運営にご協力いただきまして、本当にありがとうございました。</p> <p>これをもちまして議長の任を解かせていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>		
稲垣 補佐	<p>小倉会長ありがとうございました。</p> <p>それでは、中村教育部長より閉会の言葉を申し上げます。</p>		
中村 部長	<p>本日は、お忙しい中、皆さんお集まりをいただきましてありがとうございます。</p> <p>いじめにつきましては、やはり重大事態に発展する前に皆さんにご協力いただきながら未然に防いでいく、そういったことが大切だと改めて感じたところでもございます。</p> <p>また第2回目の会議も3月に予定されていますので、またご参加いただければと思います。</p> <p>これをもちまして、第1回いじめ問題連絡対策協議会を閉会させていただきます。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>		
稲垣 補佐	<p>それでは、今日講話をしていただきました、谷山様にもう一度大きな拍手をお願いいたします。</p> <p>会は以上で終わりました。お気をつけてお帰りください。今日はどうもありがとうございました。</p>		
要措置事項			
情報公開	<p>公 開</p> <p>部分公開</p> <p>非 公 開</p>		
情報公開	<p>公 開</p> <p>部分公開</p> <p>非 公 開</p>		
情報公開	<p>公 開</p> <p>部分公開</p> <p>非 公 開</p>	<p>非公開（一部非公開を含む）とする理由</p>	<p>（龍ヶ崎市情報公開条例 第9条 号該当）</p>